Techno Medica

2027年3月期
第２四半期（中間期）決算説明会

2026年11月25日

代表取締役社長
實 吉　政 知

目次

1. 事業の概要

2. 2027年3月期 第２四半期（中間期）決算

3. 2027年3月期業績見通し

4.資本コストや株価を意識した経営への対応（アップデート）

Techno Medica

1.事業の概要

1）会社概要

社名	株式会社テクノメディカ / Techno Medica Co. , Ltd
事業内容	医療機器、臨床検査用分析装置の研究開発、製造、販売、輸出及び、 これら装置で使用する消耗品の製造、販売
事業所	本社 研究開発センター、物流センター 支店　：大阪、名古屋、福岡 営業所：札幌、仙台、北関東、甲信越、広島、松山 出張所：盛岡、金沢、岡山
海外販売拠点	台湾支店（新北）
従業員数 (2026年9月末)	238（60）名、　派遣社員を含まず （ ）内は、パート社員の人員を外数で記載

2）テクノメディカの歴史

Techno Medica

1987年9月
神奈川県川崎市高津区にて創立

1988年
全自動血液ガス分析装置の販売を開始

1991年
自動採血管準備装置の販売を開始

1997年
本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）

1998年
本社第2研究所竣工⇒研究開発部門の充実

2004年
ジャスダック証券取引所へ店頭登録

2005年
本社第3研究所竣工⇒研究開発部門+物流の充実

2008年
東京証券取引所市場第一部に指定

2009年
本社第4ビル竣工⇒生産業務施設の充実

2012年
ヘルスケアセンターを開設
⇒ヘルスケア部門の研究開発強化

2018年
採血管準備装置 ROBO7の販売開始

2019年
テクノメディカ台湾支店開所
横浜市緑区に物流倉庫を開設

2020年
採血管準備装置 ROBO900の販売開始

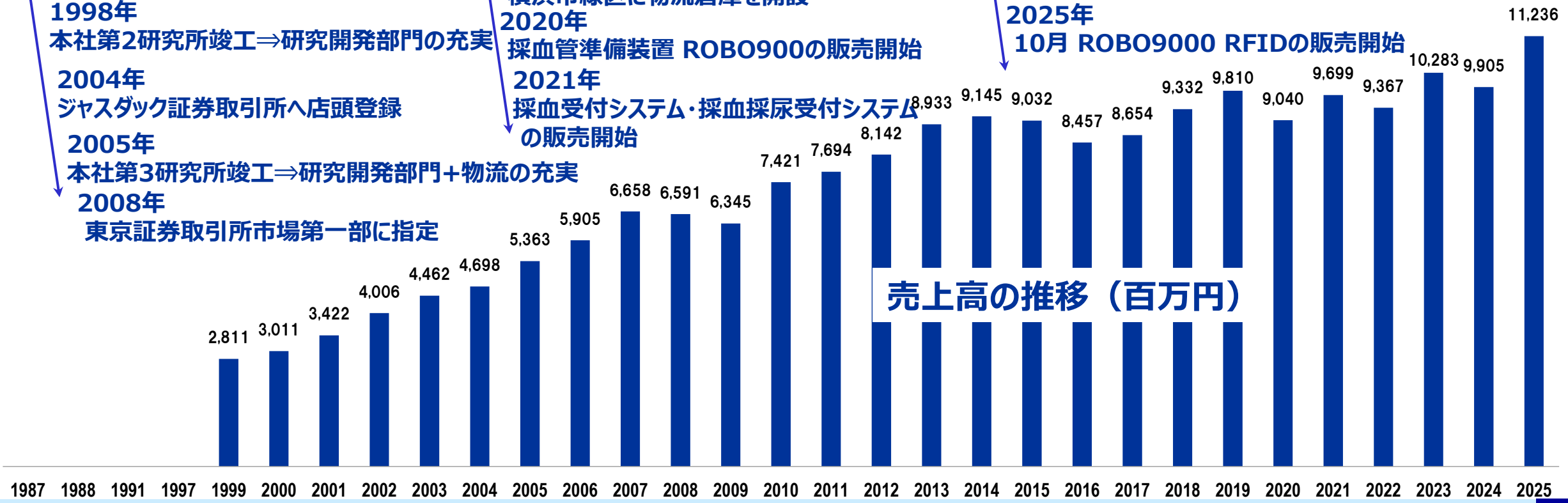
2021年
採血受付システム・採血採尿受付システムの販売開始

2022年
東証プライム市場へ移行
8月 血液ガス分析装置 新製品GASTAT-Proの販売開始

2023年
1月　研究開発センターへ研究開発機能を全面移管
10月 東証スタンダード市場へ移行

2024年
3月 クラウド採血待合システムの販売開始
10月 尿中エクオール検査キットの販売開始

2025年
10月 ROBO9000 RFIDの販売開始



3）製品情報（1/6）

品目別に見た主要製品

	製品名				
採血管準備装置・システム	 採血管準備装置 BC･ROBO-9000 RFID	 卓上型 採血管準備装置 BC･ROBO7	RFID検体情報統括管理システム TRIPS  アンテナボックス  採血管スタンド	 全自動尿分取装置 UA･ROBO-2000RFID	
検体検査装置	 血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル	コンパクト血液ガス分析器 GASTAT-pro 	電解質分析装置 STAX-6 	＜その他＞ 赤血球沈降速度測定装置等	
消耗品等	センサーカード 	ラベル 	電極 	ハルンカップ 	＜その他＞ 採血管準備装置および検体検査装置の保守等	尿中エクオール検査キット 

3）製品情報（2/6）

Techno Medica

CONFIDENTIAL

採血管準備装置・システムの歴史

採血管準備装置・システムは、テクノメディカが他社に先駆け1991年に発売し、現在では2,500施設以上で稼働しています。
昨年、8001RFIDの後継となる9000RFIDを上市しました。

1991年度	1993	1995	1998	2003	2007	2011	2017	2018	2020年度
520	530	550	585	686／787	888	8000RFID*	大型 8001RFID	小型 ROBO 7	中型 ROBO 900
									
ハンドラ 1本搬送	ラック送り 機構搭載	トレイによる オールインワン	省スペース ＋拡張性	ケースコンセプト の確立	ケース入替自在 コンパクト化	RFIDラベル対応	自動復旧機能 ダウンタイム削減	高速処理の 小型一体型タイプ	プリンタエンジン バックアップ強化

2025年度

9000RFID



*RFID(Radio Frequency IDentification)
… ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム

3）製品情報（3/6）

Techno Medica

従来機UA･ROBO-2000RFIDの発展モデルとして、新型全自動尿分取装置UA-ROBO-5000RFIDを上市

採尿ソリューション

全自動尿分取装置

UA･ROBO-5000 RFID

NEW!

尿検体分取にこだわった装置
ディスポチップ採用でキャリーオーバーゼロ、高速処理、
RFID 対応を実現



1. フロントアクセスで省スペース配置
2. 選択可能な自動廃棄機能搭載
3. ケース方式でダウンタイム削減
4. u-TRIPS との連携可能

小型尿検体分取装置 **UA･ROBO-1**

中小規模病院様向けにキューブ方式を採用し、価格を抑え、
装置の小型化を実現した尿検体分取装置

RFID 尿検体管理システム u-TRIPS V2
TECHNOMEDICA RFID PROCESS CONTROL SYSTEM

患者様と現場の声を大切に、
安全とプライバシーにこだわりました

3）製品情報（4/6）

Techno Medica

＜採血管準備装置・システム＞

採血業務支援システム Assist More

患者呼出



採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

安心・安全で より効率的な採血業務支援システム。充実のアシスト機能に
多彩なオプションをプラス。新世代の採血業務へバージョンアップ。

Assist More オプション機能



● 採血顔認証



● クラウド採血待合システム
Smart Lounge



● 採血レコーダーシステム



● 予約採血コントロール

3）製品情報（5/6）

Techno Medica

＜検体検査装置＞

全自動pH／血液ガス分析装置
GASTAT-700 Model

〇データの信頼性を追求
〇長寿命設計で、低ランニングコスト
〇IoTによりトラブルの予兆を検知



コンパクト血液ガス分析器
GASTAT-Pro

〇コンパクト、高機能　新型装置
〇新開発センサカード
〇操作性をアップグレード



3）製品情報（6/6）

Techno Medica

尿中エクオール検査キット

「EQUOTEST/エクオテスト」

ご自宅などその場で簡単・10分でエクオール産性能を調べられる検査キットが「エクオテスト」



＜ 展開先 ＞

- ECモールを使用した一般消費者へ直接提供
- 病院・クリニック様でご提供
- 女性の健康問題に取り組む企業様で福利厚生の一環として

２．2027年3月期 第２四半期(中間期)決算

第２四半期（中間期） 損益計算書

Techno Medica

売上高は前年同期比3.5億円増加し44.5億円、営業利益は同2.0億円増加の4.7億円、
中間純利益は同1.2億円増加の3.2億円となり、各利益段階において増益。

金額：百万円	2025年度 中間期	2026年度 中間期	前年比 増減額	前年比 増減率
売上高	4,104	4,453	349	8.5%
売上原価	2,147	2,298	151	7.0%
売上総利益	1,956	2,155	199	10.2%
売上総利益率	47.7%	48.4%	+0.7pt	
販管費	1,690	1,687	△3	△0.2%
営業利益	266	468	202	75.7%
営業利益率	6.5%	10.5%	+4.0pt	
経常利益	294	485	191	64.8%
特別損益	0	0	△0	－
中間純利益	203	321	118	58.1%

売上高・売上総利益

・国内において大型の採血管準備装置・システムの売上が伸長し、消耗品等も国内、海外とも堅調に推移。
・売上総利益は売上総利益率の改善もあり、前年比凡そ2億円の増益となった。

販管費

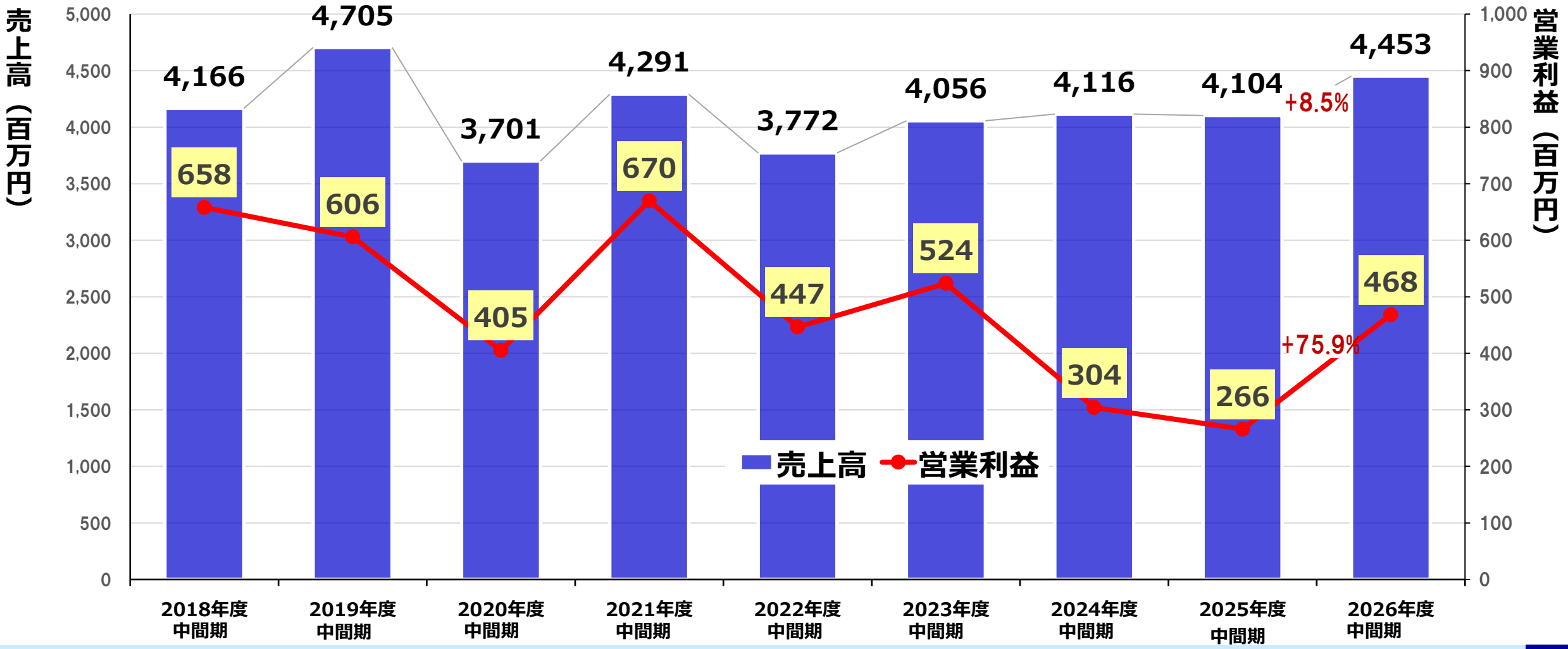
・労務費が増加した一方で研究開発費が減少したことなどにより、前年同期比微減となった。

営業外・特別損益

・大きな増減なし

第２四半期（中間期） 売上高・営業利益推移

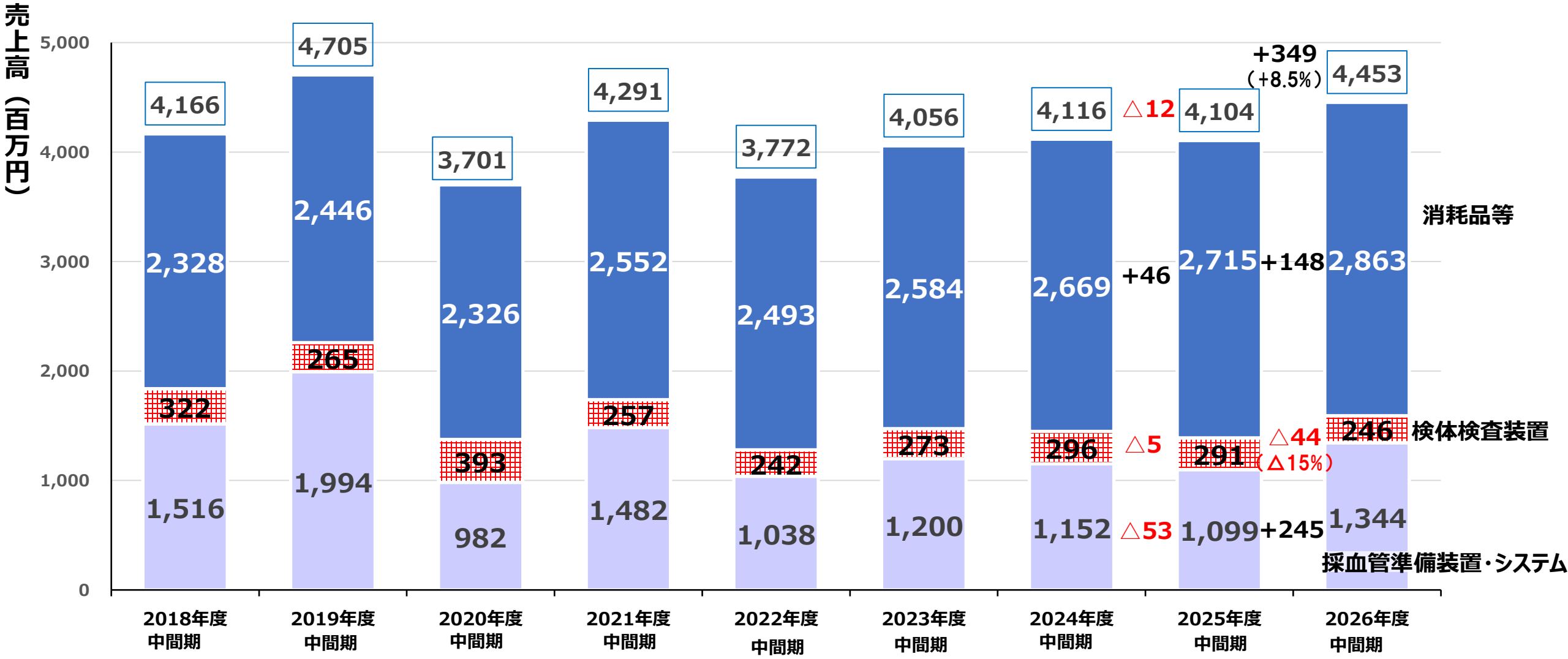
- 中間期の売上高は、過去3年間40億円台前半で堅調に推移し、2026年度は前年比約8.5%の増収
- 中間期の営業利益は、2024・2025年度で大幅減益となったものの、2026年度は約76%の増益



第２四半期（中間期） 品目別売上高推移

Techno Medica

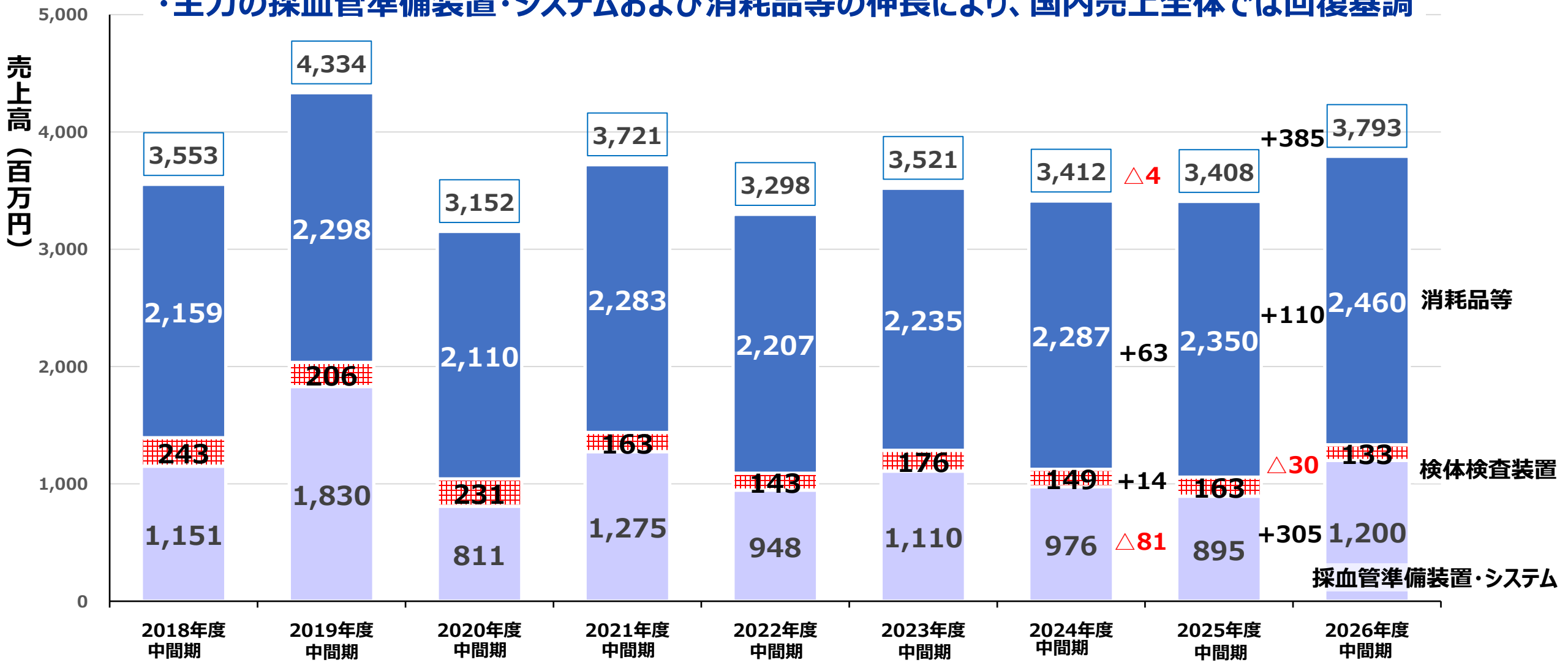
2026年度中間期は採血管準備装置･システムが好調で消耗品等も堅調だったが、検体検査装置は15%の減少



第２四半期（中間期） 国内 品目別売上推移

Techno Medica

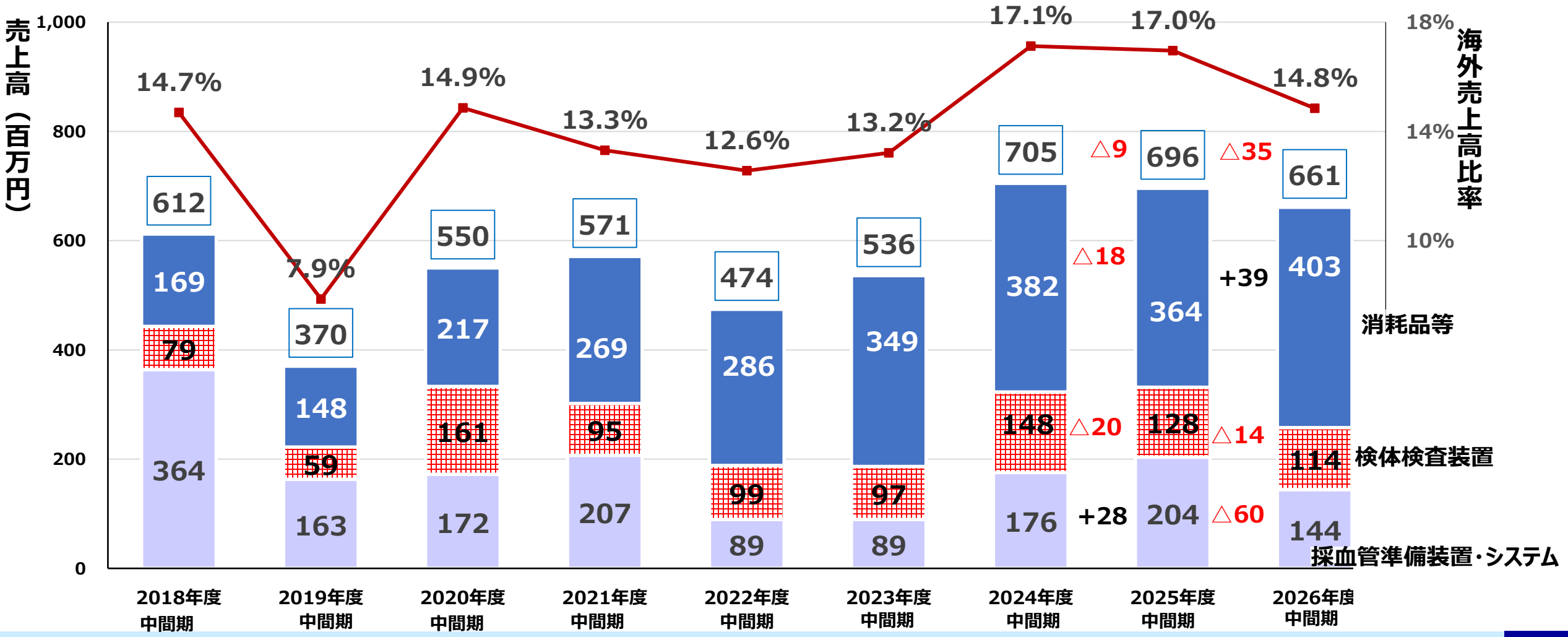
・主力の採血管準備装置・システムおよび消耗品等の伸長により、国内売上全体では回復基調



第２四半期（中間期） 海外 品目別売上推移

Techno Medica

2026年度中間期の海外売上高は661百万円となり、前年同期比35百万円減（△5.0%）となった。
消耗品等は増加したものの、採血管準備装置・システムおよび検体検査装置の減少により、全体では減収となった。



2026年9月末 貸借対照表

Techno Medica

26年9月末：資産合計は155億円で前年度末比24.8億円減少(売上債権△19.6億円、現預金△5.4億円、投資その他△1.8億円、他)
負債合計は23億円で前年度末比12.9億円減少(買入債務△6.3億円、流動その他△4.7億円、他)
純資産合計は132億円で前年度末比11.9億円減少(中間純利益3.2億円、配当△8.6億円、自己株式△6.4億円、他)

（単位：百万円）	26年3月末	26年9月末	増減
流動資産	15,696	13,345	△2,351
現預金	8,976	8,439	△537
売上債権	4,383	2,426	△1,957
棚卸資産	2,282	2,329	+47
その他	55	151	+96
固定資産	2,270	2,147	△124
有形固定資産	1,347	1,412	+65
無形固定資産	47	39	△8
投資その他	876	696	△181
資産合計	17,966	15,491	△2,475

（単位：百万円）	26年3月末	26年9月末	増減
流動負債	3,083	1,977	△1,106
買入債務	1,299	667	△632
その他	1,784	1,310	△474
固定負債	473	291	△182
製造終了損失引当金	193	0	△193
その他	280	291	+10
負債合計	3,556	2,268	△1,288
資本金	1,070	1,070	
資本剰余金	986	982	△4
利益剰余金	16,865	16,326	△539
自己株式	△4,510	△5,154	△644
純資産合計	14,410	13,224	△1,186
負債純資産合計	17,966	15,491	△2,475

第２四半期（中間期） キャッシュ･フロー（CF）比較

今期26年度中間期の現預金等は5.4億円減少し、期末残高は84.4億円
営業活動によるCFは、運転資金の減少等により、前年同期比8.2億円増の+10.9億円
投資活動によるCFは、固定資産の取得により、前年同期比0.3億円減の△0.8億円
財務活動によるCFは、自己株式の取得(△6.9億円)、配当金の支払い(△8.6億円)で、前年同期比10.8億円減の△15.5億円

（単位：百万円）

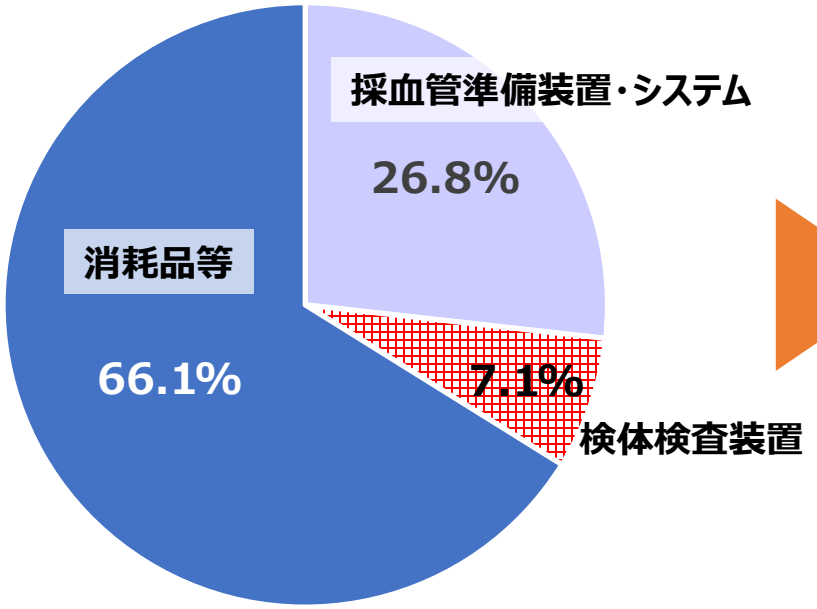
摘　要	25年度 中間期	26年度 中間期	増　減
営業活動によるキャッシュフロー　(A)	270	1,091	821
投資活動によるキャッシュフロー　(B)	△52	△82	△30
フリーキャッシュフロー(A+B)	217	1,008	791
財務活動によるキャッシュフロー			
自己株式の取得	0	△687	△687
配当金の支払額	△471	△859	△388
小計　(C)	△471	△1,546	△1,075
現預金等増減　(A+B+C)	△253	△537	△284

現預金等の期首残高	9,061	8,976	△85
現預金等の中間期末残高	8,808	8,439	△369

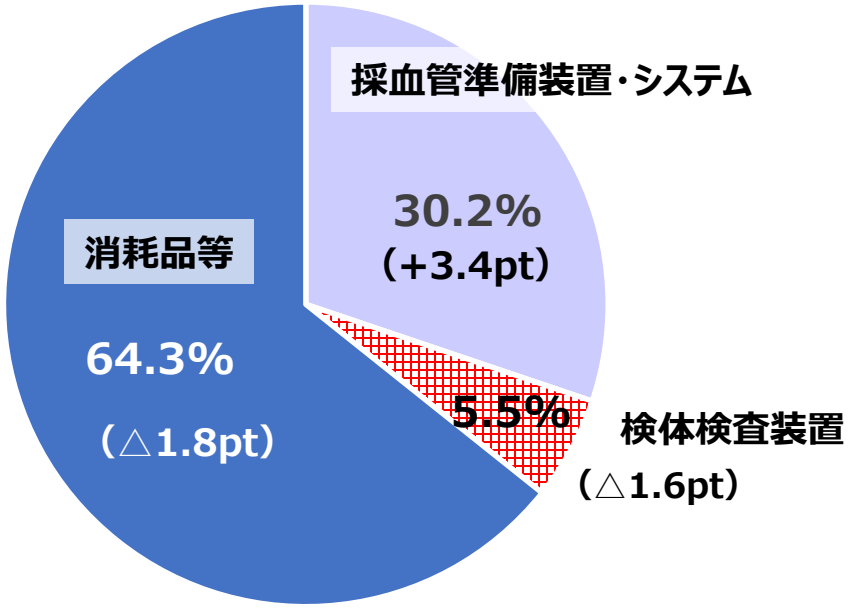
第２四半期（中間期）品目別売上構成比較

Techno Medica

25年度中間期 売上構成



26年度中間期 売上構成



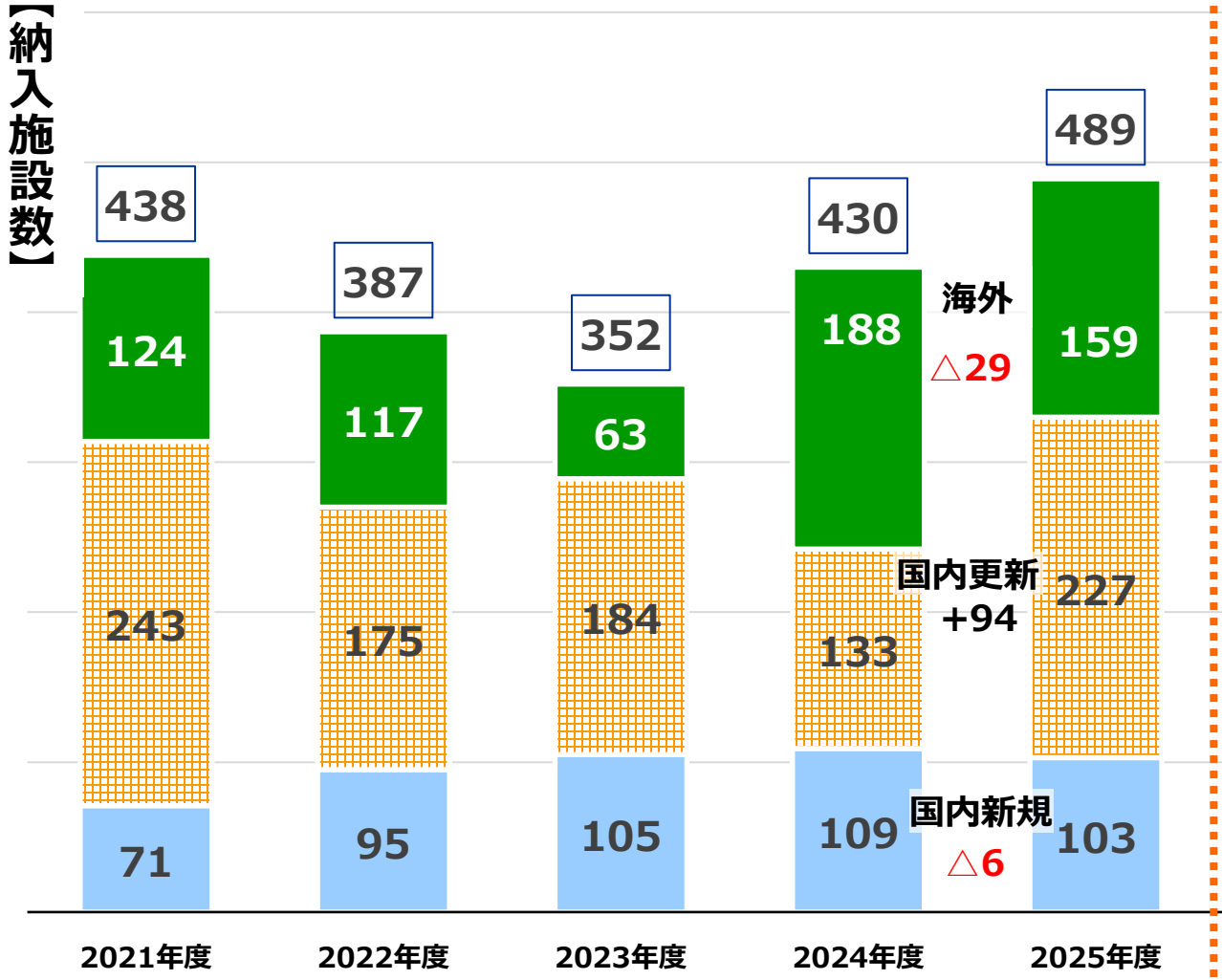
（金額：百万円）

品目区分	25年度中間期	26年度中間期	増減額	増減率
採血管準備装置・システム	1,099	1,344	245	22.3%
検体検査装置	291	246	△44	△15.2%
消耗品等	2,715	2,863	148	5.5%
計	4,104	4,453	349	8.5%

採血管準備装置・システム－BC・ROBO納入施設数 ［国内新規・更新、海外別］

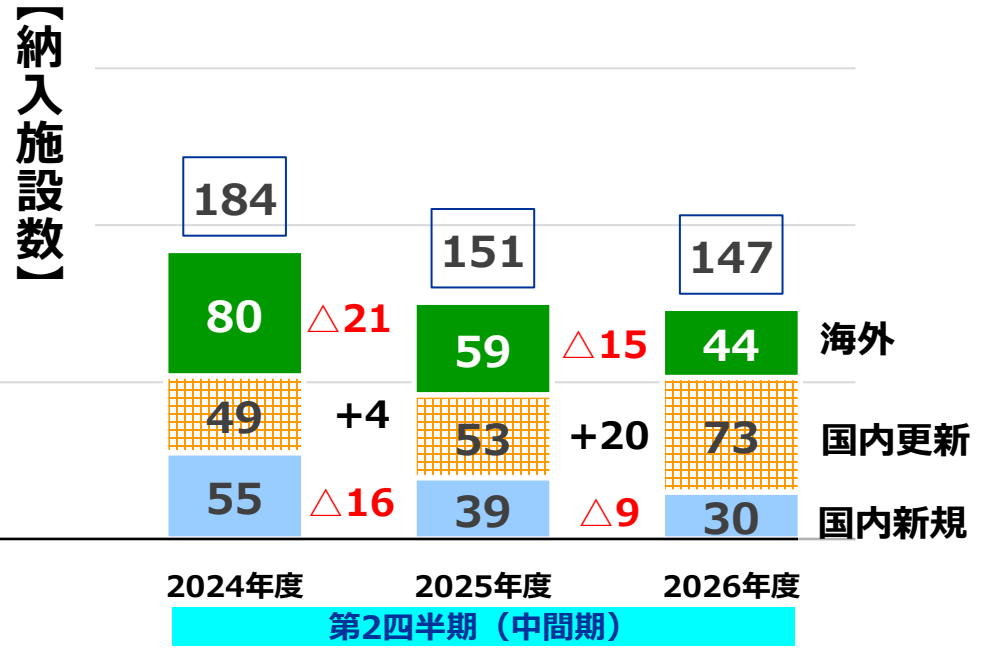
Techno Medica

＜納入施設数年度推移＞



＜第2四半期（中間期） 納入施設数推移＞

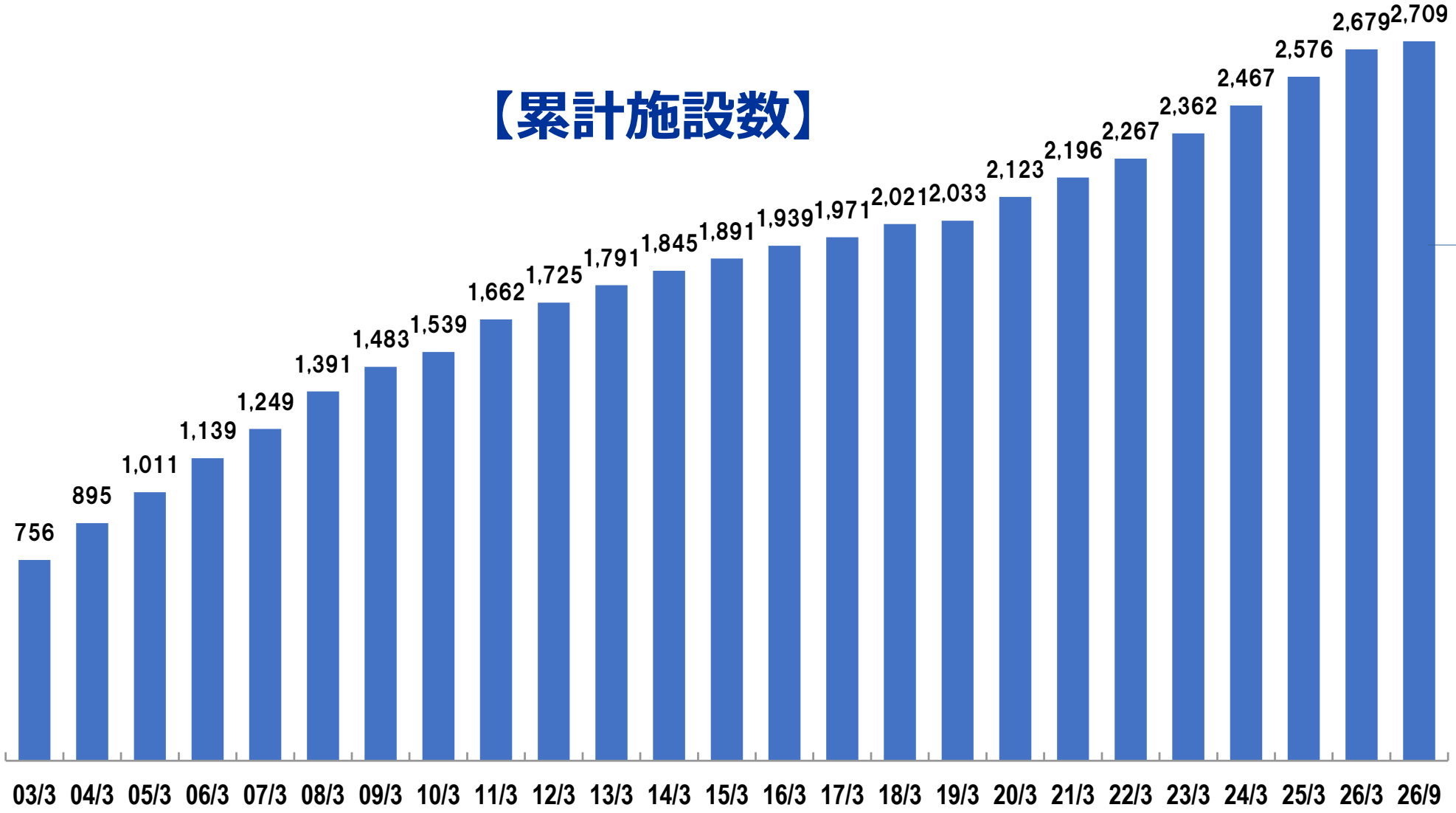
・国内新規：前年同期比減（小型・中型機 減）
・国内更新：〃 増（大型・中型機 増）
・海外 ：〃 減（小型機 減）



採血管準備装置･システム－国内納入施設数の推移

Techno Medica

【累計施設数】



TRIPS採用施設数
170施設
(前期末比：+4)

Techno Medica

3. 2027年3月期 業績見通し

2027年3月期業績見通し 損益計算書

◆27年3月期の売上高は、採血管準備装置・システムの更新需要の減少が見込まれ、前期比9.4億円の減収

◆営業利益は、減収による売上総利益の減少4億円、販管費の増加（労務費、他）1.6億円 により、前期比△5.6億円減益の見込み

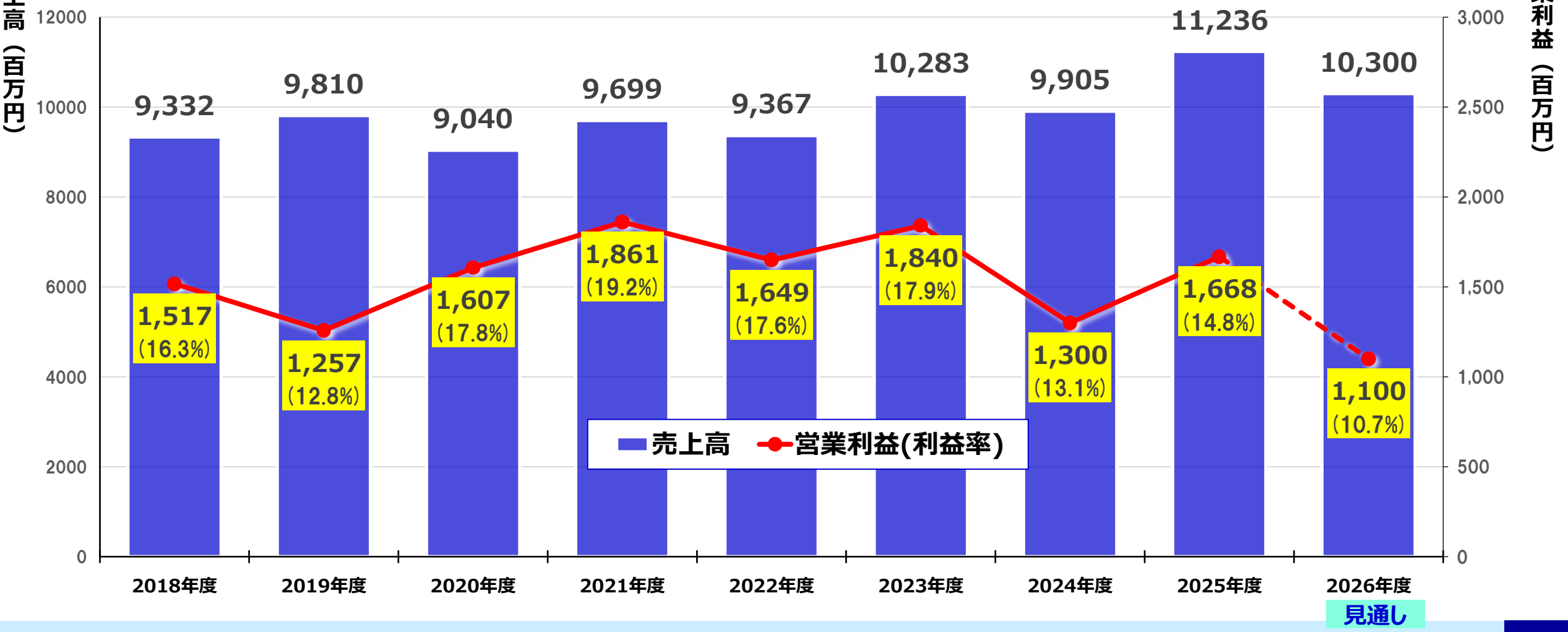
（単位：百万円）

	2026年3月期 実績	2027年3月期 業績見通し	前年比 増減額	前年比 増減率
売上高	11,236	10,300	△936	△8.3%
売上総利益	5,242	4,841	△401	△7.6%
粗利率	46.7%	47.0%	0.3pt	
販管費	3,574	3,736	162	4.5%
営業利益	1,668	1,105	△563	△33.7%
営業利益率	14.8%	10.7%	△4.1pt	
経常利益	1,718	1,105	△613	△35.7%
特別損益	△192		192	
当期純利益	1,070	773	△297	△27.8%

売上高・営業利益推移

Techno Medica

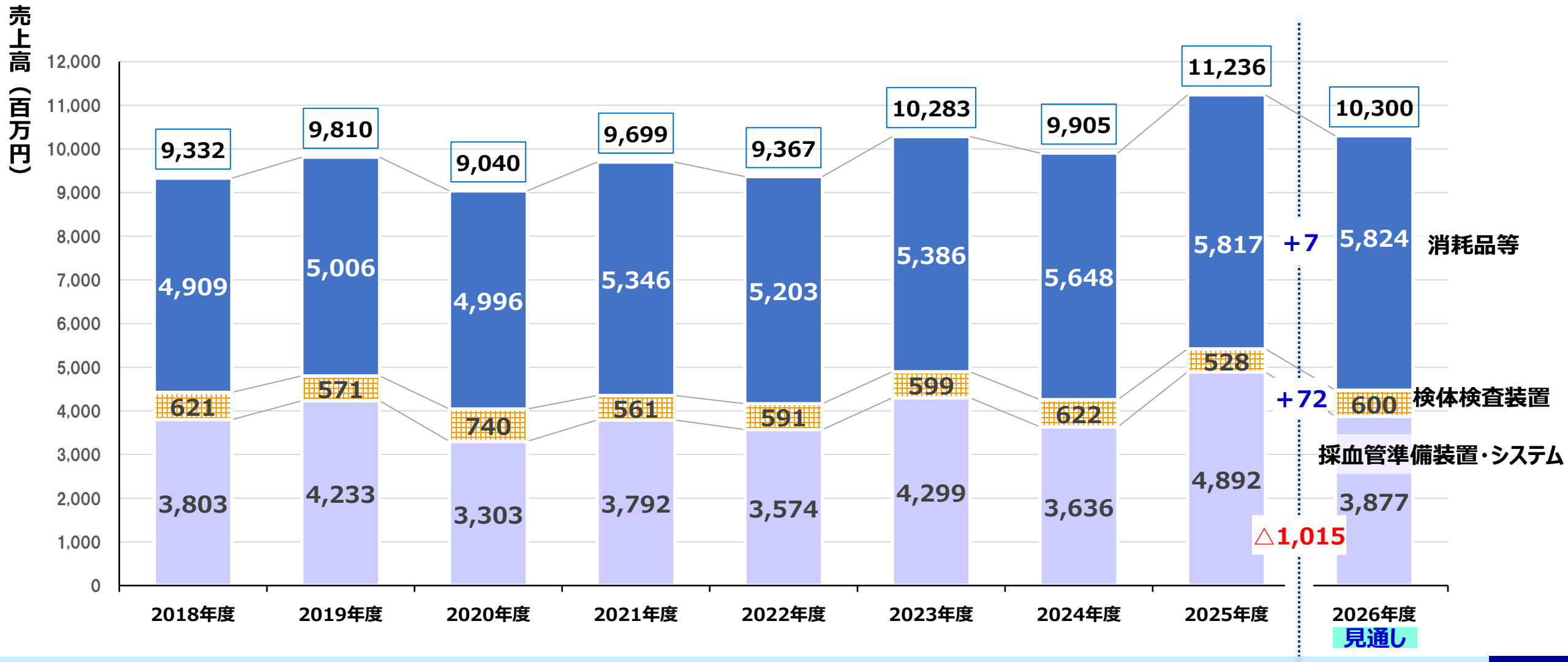
・年度推移を見ると、売上高は拡大基調だが、営業利益は21年度をピークに減益傾向。
・2025年度は、売上高が110億円超で過去最高となり、営業利益も回復したが、
2026年度は、売上高が減少するほか、販管費の増加により、営業利益は11億円まで減少する見通し。



品目別売上高推移

Techno Medica

◆2026年度は、採血管準備装置・システムが前期の反動で大きく減少する見通し

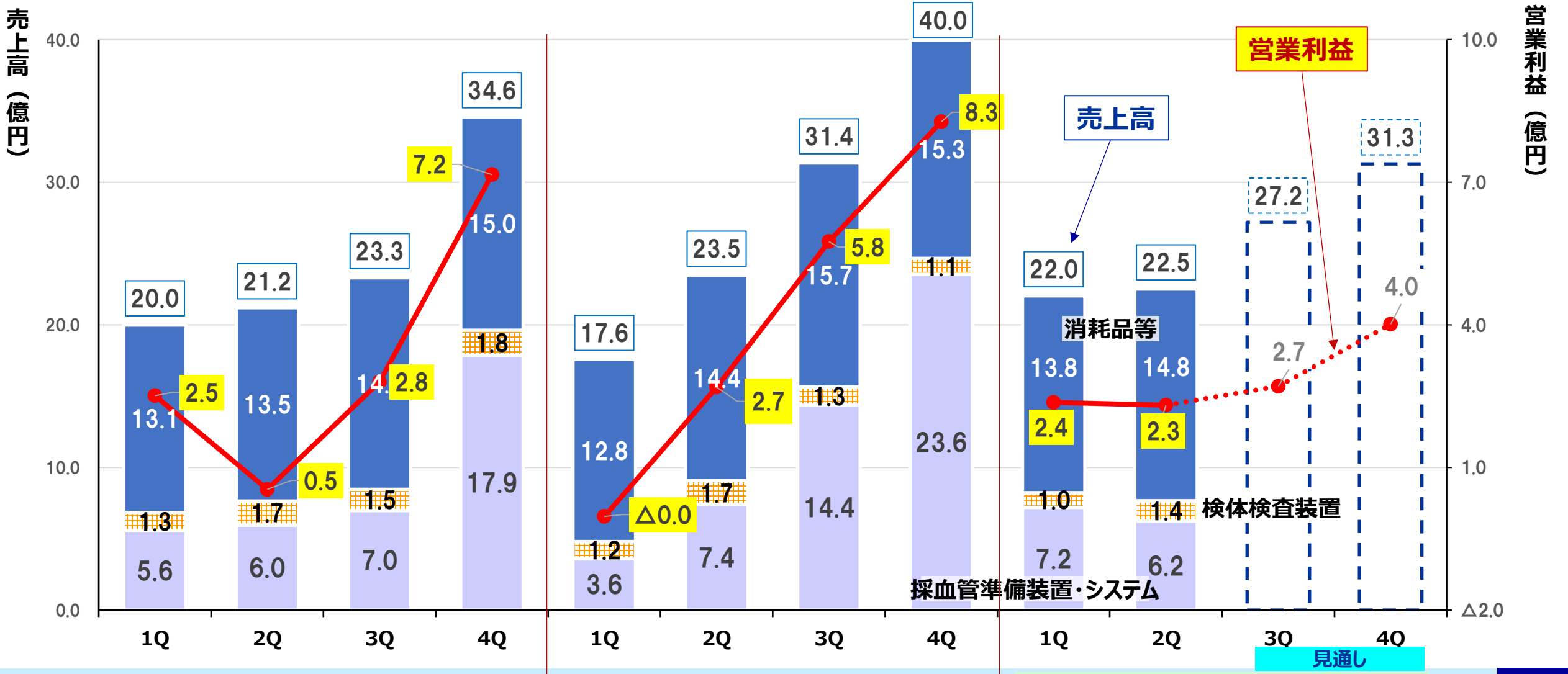


2027年3月期 第２四半期決算（4/4）

品目別売上高、利益 四半期ごとの推移

Techno Medica

・主力の採血管準備装置・システムの売上が下期に集中するため、全社の売上高および営業利益も下期偏重の収益構造
・2026年度下期は、前年度下期のような大幅な伸長は見込まず、2024年度下期と同程度の売上水準となる見通し



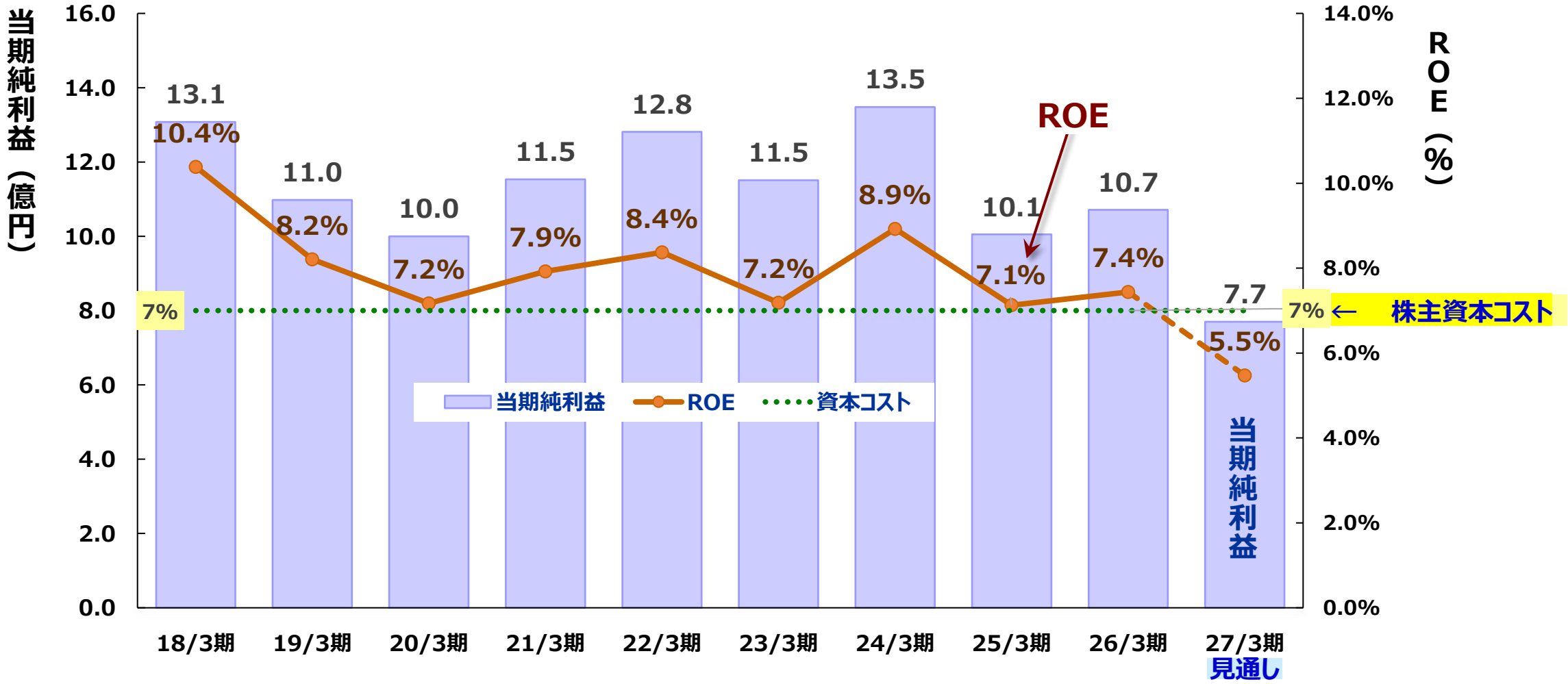
Techno Medica

4.資本コストや株価を意識した経営への対応 (アップデート)

ＲＯＥの推移

Techno Medica

◆ ROEは、26/3期まで7%超で推移し、株主資本コスト7%（株式益利回りベース）を上回っていたが、27/3期は当期純利益の減少に伴い、5.5%まで低下する見通し。

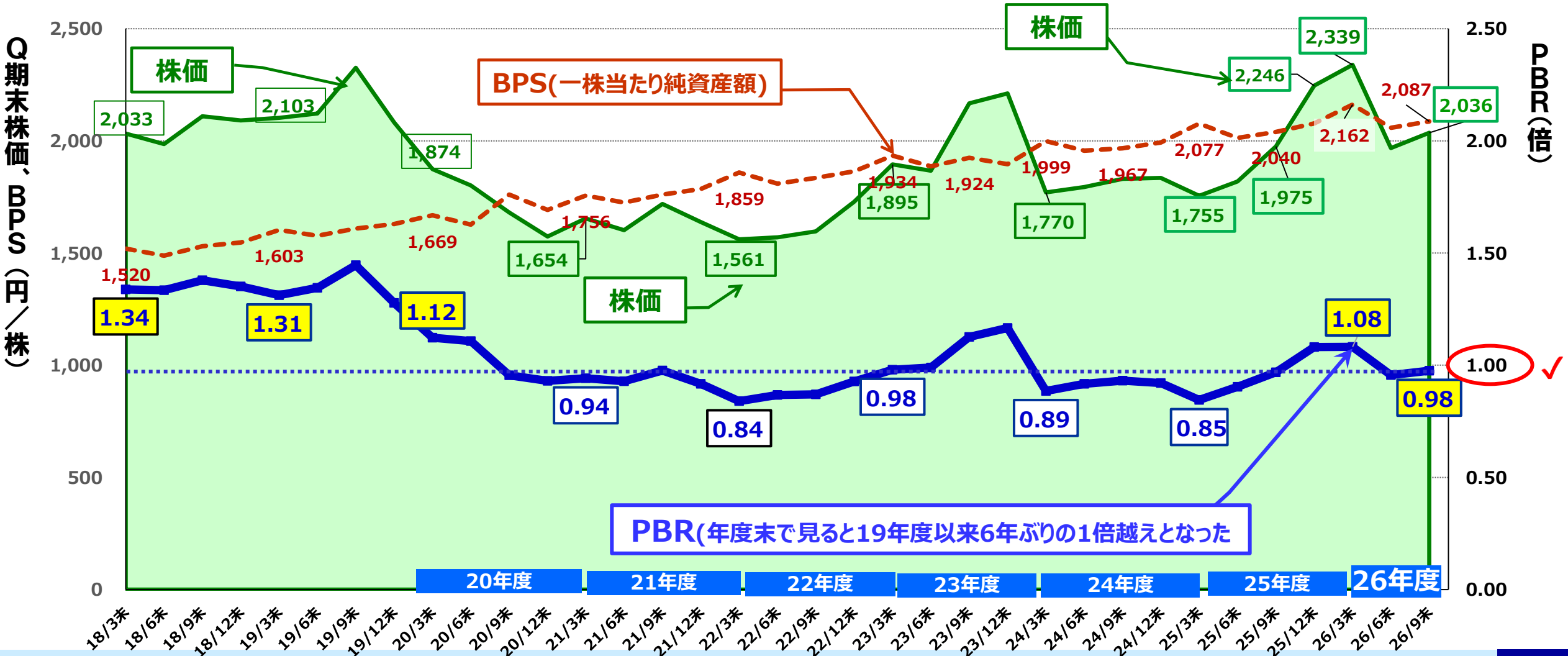


当社の四半期毎のPBR(株価純資産倍率）推移

Techno Medica

PBR（株価純資産倍率）＝株価÷BPS（一株当たり純資産額（自己株式数を除く））

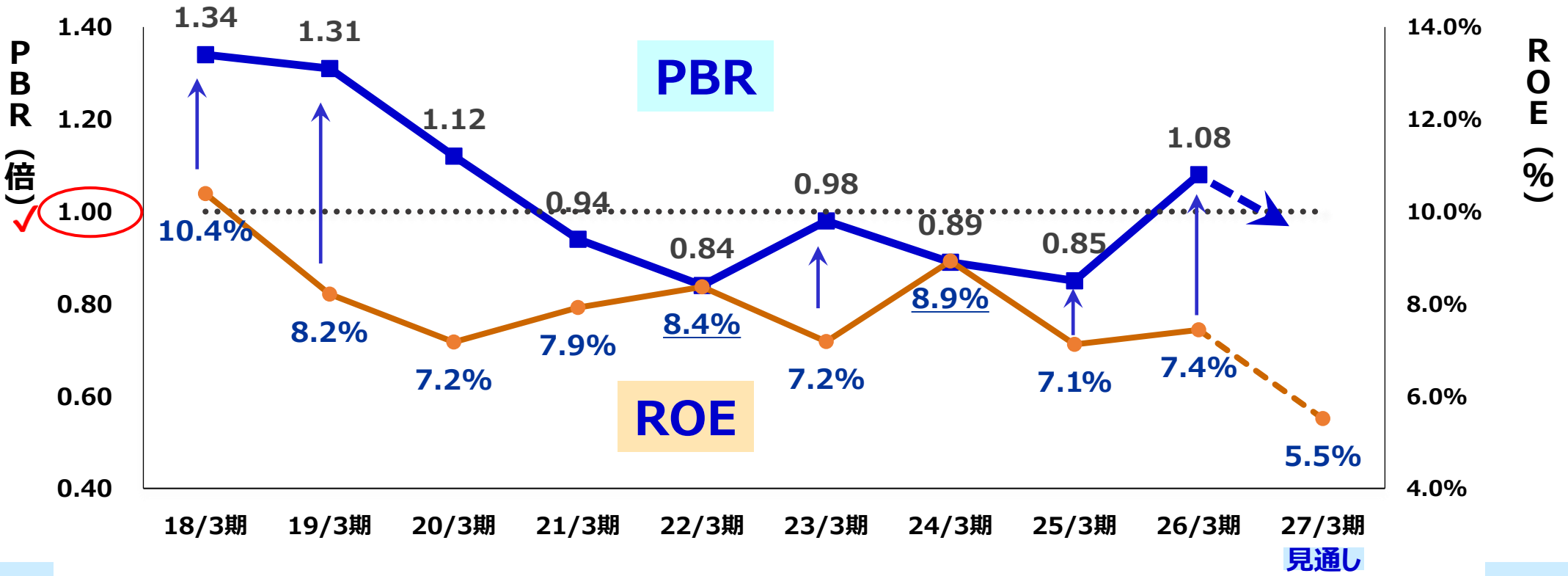
26年3月末のPBRは株価上昇により1倍超となったものの、その後の株価下落に伴い、9月末時点では0.98倍となった。



当社のROE(自己資本利益率）とPBRの推移

PBR（株価純資産倍率）＝株価÷BPS（一株当たり純資産額（自己株式数を除く））
ROE（自己資本利益率）＝当期純利益÷自己資本（(前期末+当期末)/2）×100

- 22/3期、24/3期は、ROEが8%超であったが、PBRは1倍割れであった。
  一方、26/3期はROEが8%未満にもかかわらず、株価上昇によりPBRは1倍超となった。
- 27/3期は、ROEが5.5%まで低下する見通しのため、株価は下落傾向で、PBRも1倍を下回る可能性がある。



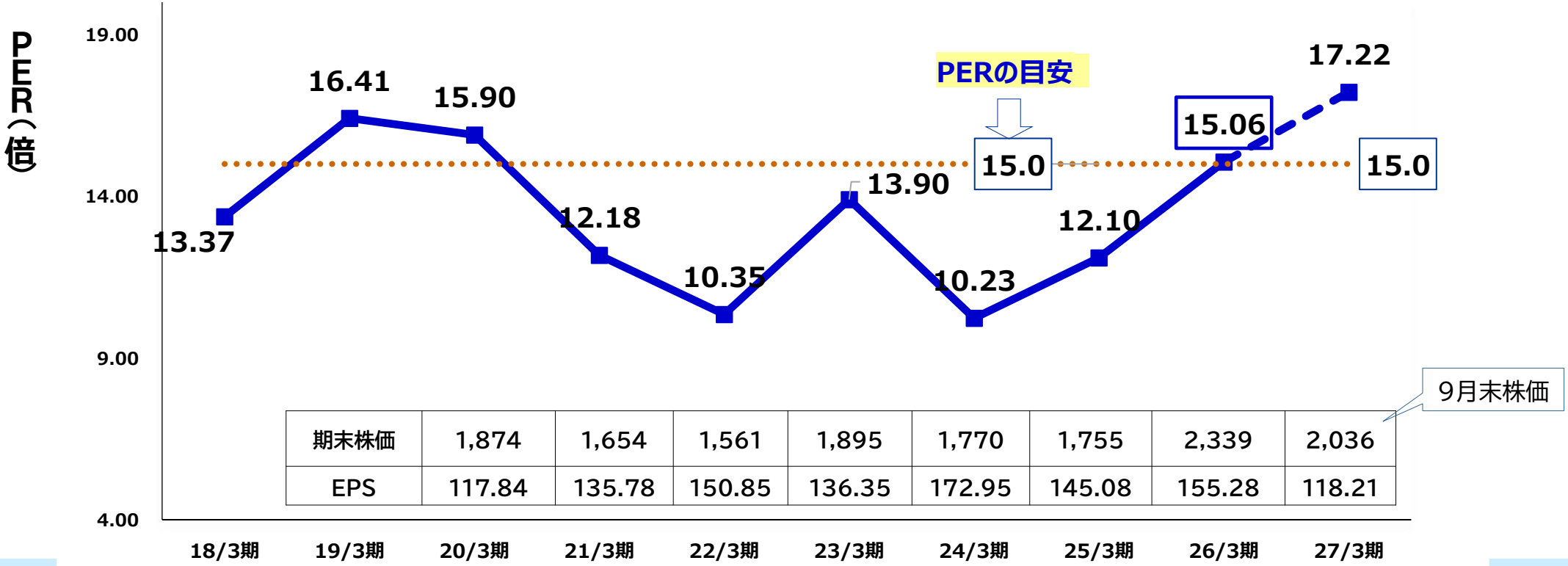
当社のPER（株価収益率）の推移

PER（株価収益率）＝株価÷EPS（一株当たり当期純利益金額）：株価が1株当たり純利益の何倍の価値になっているかを示すもの

◆一般的に、PERの数値目安は15倍といわれており、PERが15倍未満であれば株価に対して割安、15倍以上であれば割高と判断される。
→高PER企業は、将来の高い成長などを市場から期待されている

◆26/3期のPERは、利益増加によるEPSの回復以上に株価が上昇したことから、6年ぶりに15倍超となった。

◆27/3期は、利益減少によりEPSは低下する見通しであるが、EPSの減少率に対して株価の下落率が小さいことから、9月末時点の株価ベースではPERは上昇している。

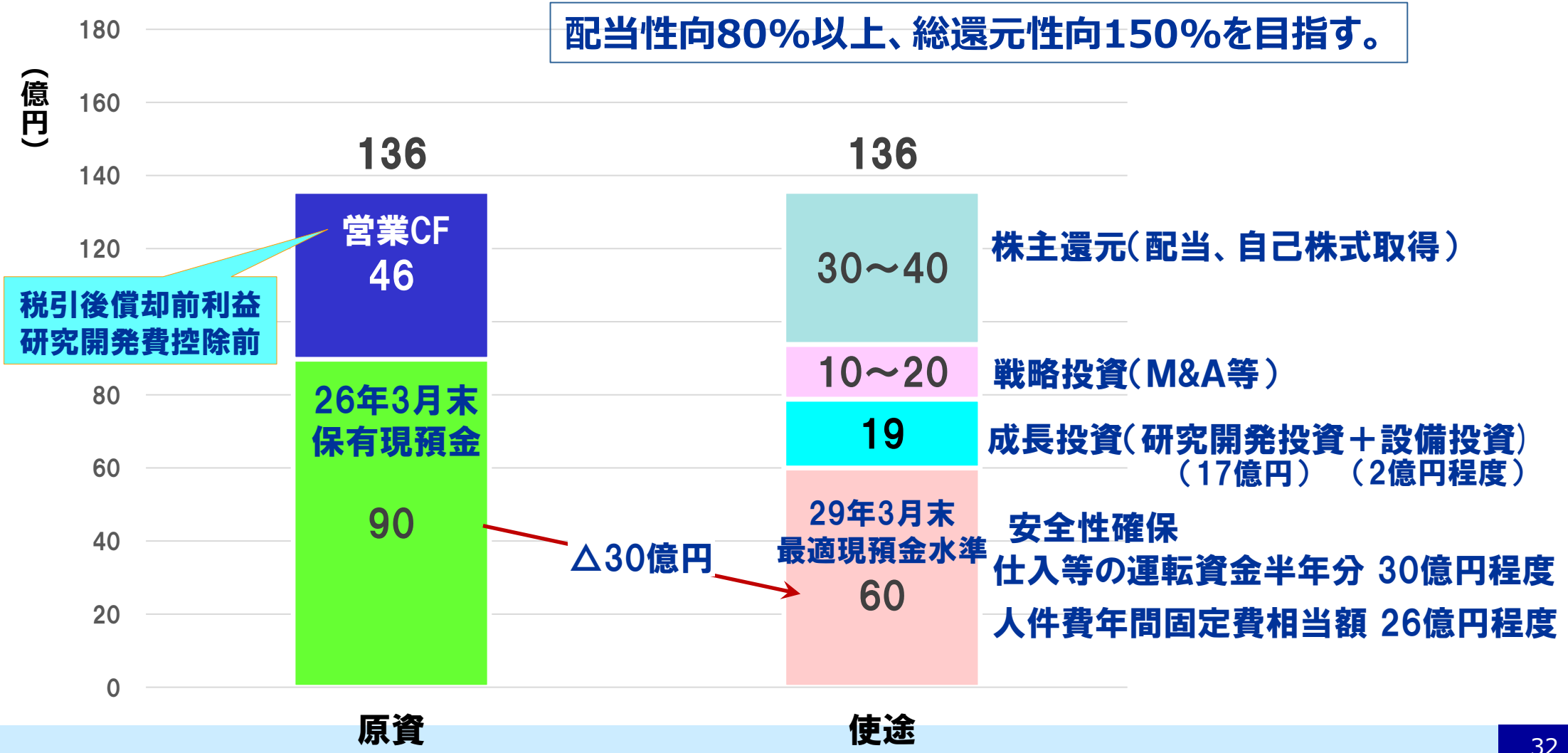


	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	27/3期
期末株価	1,874	1,654	1,561	1,895	1,770	1,755	2,339	2,036		
EPS	117.84	135.78	150.85	136.35	172.95	145.08	155.28	118.21		

26-28年度キャッシュ・アロケーションに関する方針

◆ 26中計の方針として、事業運営に必要な現預金を60億円程度確保しつつ、収益拡大に向けた成長投資や戦略投資（M&Aなど）を実行するとともに、30～40億円を目安に株主還元を行う。

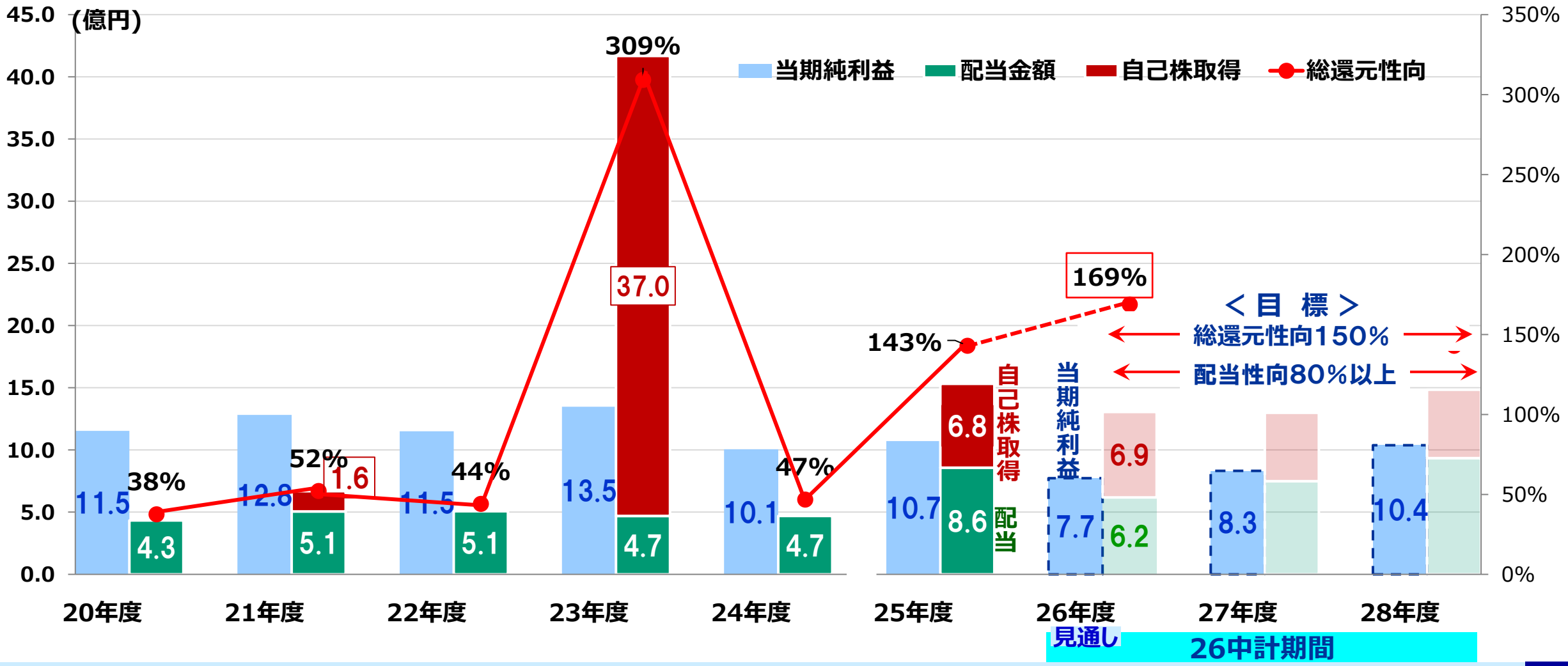
配当性向80%以上、総還元性向150%を目指す。



株主還元の推移

Techno Medica

2026年度は、自己株式の取得6.9億円を実施し、配当性向80%、配当額6.2億円を見込む。



自己株式保有に係わる方針

1）自己株式取得に係わる方針

・当社は株主還元策として 、26中計期間（2027年３月期～2029年３月期）において、キャッシュアロケーション方針に基づき、配当性向80%以上、総還元性向150%を目指し、配当を第一に考えるが、自己株式の取得についても、必要に応じて資本効率の改善を目的に実施する。

2)自己株式保有に係わる方針

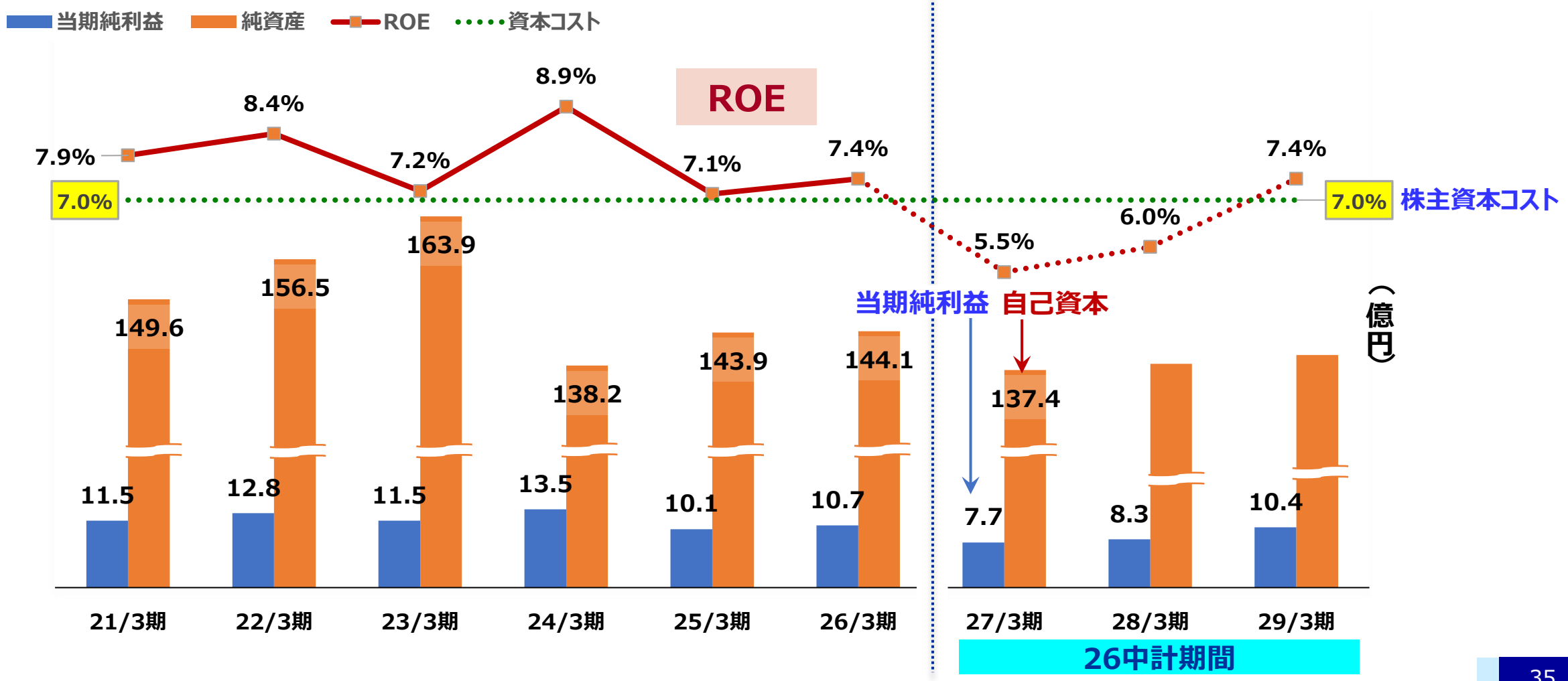
・2026年9月末現在、自己株式数は2,423千株、発行済株式総数に対する保有比率は27.7%となっている。

・自己株式については、株主還元や資本効率、将来的な活用可能性等を総合的に勘案しながら、その取扱いを検討している。

消却を含め、具体的な事項を決定した際には、適切なタイミングで公表する。

自己資本と当期純利益、及びROEの推移

◆26-28年度の3ヶ年で、収益の回復、拡大を図ると共に、株主還元（30～40億円）により、自己資本を圧縮し、ROEの向上を図る。



ROE向上に向けて

Techno Medica

ROEの回復･向上に向け、収益性、資産効率及び資本効率の改善を推進。

･ROE ＝ ①売上高純利益率（収益性） × ②総資産回転率（資産効率） × ③財務レバレッジ（資本効率）

･本業の収益力向上や資産効率改善による持続的なROE向上

･自社株買い･増配による財務レバレッジ向上を通じたROE向上

ROE構成要素	主な施策
①売上高純利益率（収益性）	TRIPS等の高付加価値製品･サービス拡販、価格適正化、生産性向上、固定費抑制
②総資産回転率（資産効率）	在庫･現預金等の適正化 M&A（余剰現預金の活用）
③財務レバレッジ（資本効率）	余剰資金の圧縮、機動的な株主還元（自社株買い）

＜注意事項＞

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。

ご清聴ありがとうございました